

附属坂出学園だより

～ 改革と周知 ～

第64号

2020.1



附属坂出学園は、幼・小・中・特支が一体となり、一貫した学び、インクルーシブな学校文化を構築してまいりました。さらに、未来を担う教員となる学生への支援、現職教員の方がたの研修の場、そして、様々な問題解決のための学校教育の支援のために力を尽くしてまいります。地域の方がたと手を取り合って、これからもしっかりと地域に根ざし、未来に向かって邁進していきます。

香川大学教育学部附属坂出中学校長 高木由美子



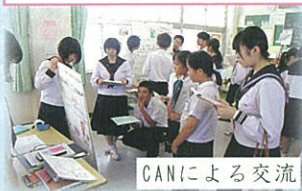
今、附属坂出学園は大きく変わろうとしています。もちろん今までも素晴らしい学園でしたが、そこからさらに改革を進めています。

地域に必要とされる、そして真のモデル校として先生と保護者、地域の皆様で学園を支えていく必要があります。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

附属坂出学園 松韻会会長 宮本 昌尚

幼・小・中・特支のコラボ改革の実践と効果をHPにて発信しています。

I. 幼小中の一貫教育



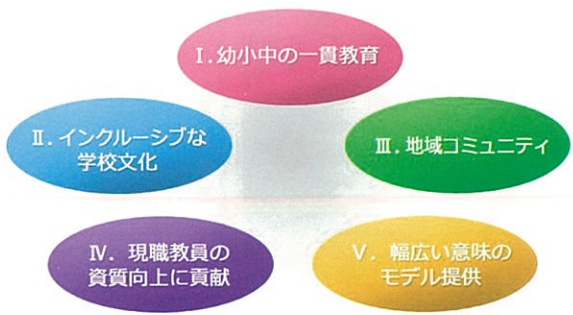
CANによる交流

II. インクルーシブな学校文化



特支・小なかよし玉入れ

～ 人が集まる魅力ある学園に変身 ～
香川に生きる人をつくる幼小中の一貫教育



I. 幼小中の一貫教育



年長・小学2年生の交流

III. 地域コミュニティ



附属ふれあい預かり学校

HP ラインアップ

I. 幼小中の一貫教育による大きな教育効果

- ①12年間の共通した学習観
- ②(1)幼小のなめらかな接続
- (2)小中の一貫教育
- ③12年間の子供と保護者の心の支援
- ④小中高就職までの一貫した学び (特別支援学校)

II. インクルーシブな学校文化 (共生社会に向けた人づくり)

- ①新しい障がい観の浸透
- ②発達支援、ユニバーサルデザインの視点からの充実
- ③(1)地域のセンター的な役割 (特別支援学校、特別支援教室「すばる」)
- (2)人材育成機能

III. 地域コミュニティ (附属型コミュニティスクール)

- ①人が集まる学園に (地域に開く生涯学習の場)
- ②教育人材の開発
- ③坂出高校教育創造コースとの連携
- ④防災啓発コミュニティ

IV. 現場教員の資質向上に貢献

- ①県市町教育委員会とのコラボ研修
- ②子供のいる実践的な教員研修の場
- ③香川の教科研究団体の運営
- ④異校種教員研修のモデル提供
- ⑤教職大学院の指導教員併任と実践システムの確立

V. 幅広い意味のモデル提供

- ①働き方改革に向けた実践事例の提供
- ②国が進める「体験的学習活動等休日」の実践事例の提供
- ③幼小中特支の合同運動会の実施モデルの提供
- ④いじめ、発達障害、SNS、心の問題等、現代的課題に対するPTAとの合同研修のモデル提供



HPアドレス <http://www.sch.ed.kagawa-u.ac.jp/education-reform>
ご意見・ご感想をお寄せください。各校園のHPからも見るができます。

○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

2学期は、初めての運動会に向けての活動から始まりました。楽しみな気持ちの反面、緊張を感じている姿も見られました。運動会に向けての日々の中で、友達と一緒に活動する楽しさやダンスやかけっこで力一杯体を動かすことの心地よさを感じることができました。当日は、たくさんのお客さんに囲まれ、不安を感じた人もいましたが、年長児・年中児や先生、お家の人、小中学生などに支えられながらため込んだ楽しさや自信をしっかりと発揮しました。



ゴールをめざして

2学期の半ばになると、自分のやりたい遊びや友達に自分から関わっていかうとする姿が見られ始めました。大好きな三輪車に乗りたくて早く登園する子、互いに三輪車が好きなことをきっかけに一緒に遊ぶようになる姿など、好きな遊びをしていく中で友達に対する思いが膨らんでいきました。大好きな友達との関わりの中で、遊びのイメージが広がり始め、ときには思いがぶつかる体験をしながらも、友達と楽しく過ごすことを嬉しく感じています。



みんなでぎゅうぎゅう

【年中児】

遊びに没頭する中で、ものに関わることの面白さを体験している子供たち。そしてその傍には友達の存在があります。遠足ごっこをするうちに、イメージが膨らみサーカスごっこへと変化したり、段ボールで作る中で「オオカミが来ても大丈夫かな」とお話の世界を共有して楽しんだりする姿があります。そんな姿がそのまま生活発表会へと繋がり、動物になりきったり自分の得意な事を披露したりしました。用具の出し入れも全て自分たちでやろうと自ら動いていた子どもたち。「名札が青色（年長組の色）に変わってくるんじゃない!?」と言うほど自分たちでやり遂げたという自信につながりました。これらの体験が絡み合い友達とイメージを重ねたり膨らませたりしながら群れるように遊ぶ姿が増えている2学期後半の子供たちです。

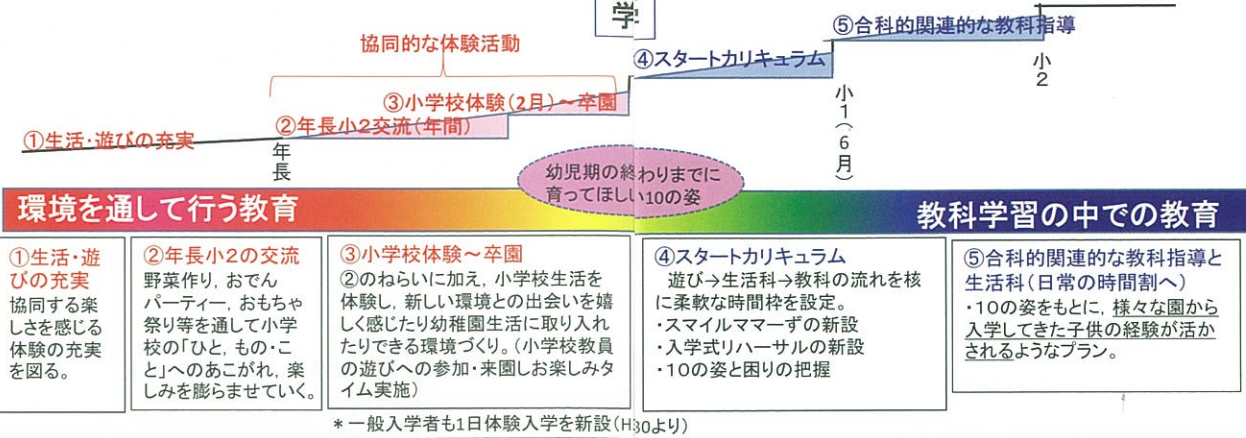


何人増えても回れそう!



忍者のジュース屋さんです!

学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



② 年長児・小学2年生の交流

【年長児の視点から】

2年生に招待してもらったおもちゃまつり。子供たちは、わくわくしながら「こんなに倒せたよ! もう一回やりたい!」と、2年生が工夫を凝らして作ってくれたおもちゃに興味津々でした。どうやるとうまく飛ぶのか優しく教えてもらったことを活かして幼稚園に帰って作り始めましたが、なかなかうまくできません。次の日「昨日、兄ちゃんに作り方を聞いてきたよ」と、家で2年生の兄から実物を借りて来て、得意気に友達に伝えようとする姿がありました。

「青組さんでもおもちゃまつりをしたいね!」と、交流を通して得たアイデアを、自分たちの生活に取り入れようとしている子供たちです。



あのカップ、狙うよ!

【小学校2年生の視点から】

年長さんに喜んでもらえるように、また、小学生が楽しいと思ってもらえるように、楽しいおもちゃやゲームを工夫して作りました。景品もたくさん作りました。

当日は、遊び方をうまく教えてあげられ、何回も遊びに来てくれてうれしかったです。ゲームがうまくいかず残念そうにしていた子にも景品をあげるとうれしそうにしていました。最後には、みんなとても上手になったのでびっくりしました。

家で弟からおもちゃの作り方を聞かれて、教えると喜んでいてほくほくうれしかったです。幼稚園でもほからのゲームイベントがブームになっていると聞いて、2年生みんなで一生懸命してよかったなあと思いました。

年長さんのおもちゃはほくたちのより工夫していました。



教えてあげてよかったなあ

香川大学教育学部 片岡元子教授より

これらの取組は、幼稚園での生活や遊びを通して学んだことを小学校での教科学習に活かしていくことができるものになっています。年長児と小学生の交流活動の実施は、小学校生活への期待を膨らませ安心して入学を迎えることにつながります。



スタートカリキュラムのその後の効果

入学よりスタートカリキュラムが終了する5月半ばまで、一斉メールシステムを利用し、金曜ごとに全保護者からアンケートを取った(学園だより1学期号参照)。この調査により、一人ひとりの子供や保護者が不安を感じていることが把握でき、その後の指導に活かされた。

例えば、人前で話すことに不安を感じていたAさんには、発表ができたときや友達に声かけができたときに、タイムリーに褒めるだけでなく連絡帳にシールを貼り、評価できるようにした。母親はそれを見て、家で安心して褒めることができ、Aさんにとって学校でも家庭でも褒められることになりどんどん改善されていった。

○ 教科学習の中での教育へ

⑤ 合科的関連的な指導へ

体育科「もっともっと虫にないきろう」

幼児期に虫とふれあったときの体験や園でごっこ遊びをした体験をベースに、1年体育科(リズム遊び)の学習を行いました。

生活科や日常での虫の飼育観察から、好きな虫の特徴的な動きを表出させるとおのずと動作化する子供の姿が見られます。それを見せ合うことで、どんどん上手に踊りたいという気持ちが膨らみます。

そして、踊りが上手になる要素「大きさ」「速さ」「高さ」「向き」「動き方」に着目した教科学習へ導きました。

「元気なダンゴムシが餌を探るところ」や「強いカマキリが戦うところ」などを楽しく踊り、友達と見せ合ったり、タブレットをつかったりして、どんどん虫になりにきっていきました。

参観にきた幼稚園の元担任の教諭は、「幼稚園のときに虫と一緒に生活したり、日常の遊びの中でいろいろなものになりきってたっぷりと遊んだりした経験が本時の学習につながっていると思う。また、友達の意見に喜んだり、よさを取り入れたりする場面も多く見られ、成長した姿がとてうれしかった。」と感想を述べていました。

参観にきた幼稚園の元担任の教諭は、「幼稚園のときに虫と一緒に生活したり、日常の遊びの中でいろいろなものになりきってたっぷりと遊んだりした経験が本時の学習につながっていると思う。また、友達の意見に喜んだり、よさを取り入れたりする場面も多く見られ、成長した姿がとてうれしかった。」と感想を述べていました。

参観にきた幼稚園の元担任の教諭は、「幼稚園のときに虫と一緒に生活したり、日常の遊びの中でいろいろなものになりきってたっぷりと遊んだりした経験が本時の学習につながっていると思う。また、友達の意見に喜んだり、よさを取り入れたりする場面も多く見られ、成長した姿がとてうれしかった。」と感想を述べていました。



①モデルを示し、踊りが上達するポイントを顕在化



②友達と見せ合いながらよさを共有



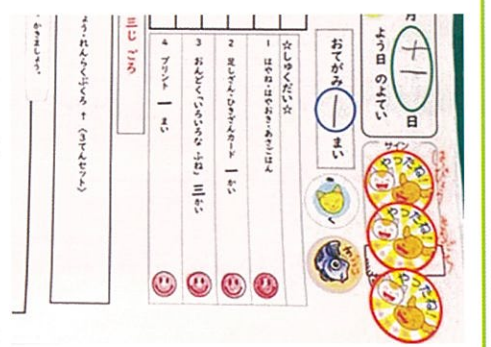
③タブレットを使って踊りを振り返る



④さらに向上した踊りを見守る幼稚園教諭



⑤振り返りのシェアリング



不安改善のための連絡帳

小6外国語科(中学校教員とコラボの効果)

4月より実施してきた表題の効果を探るため12月上旬6年生68名に「中学校の英語の先生と勉強して楽しかったですか」について4件法(はい、どちらかといえばはい、どちらかといえばいいえ、いいえ)と自由記述で尋ねました。

「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的回答率は93%と、とても高かったです。

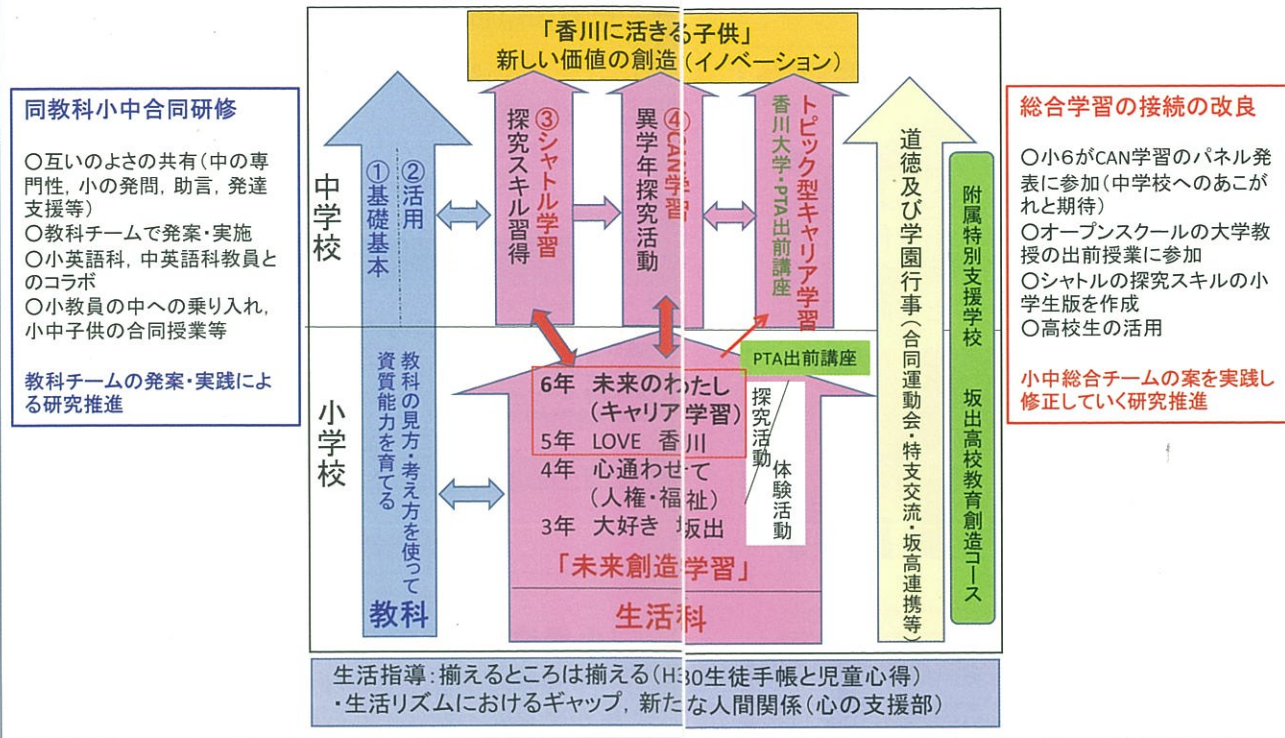
その理由を自由記述から探ると、子供が感じている価値は、楽しいのはもちろんのこと、①英語の発音や内容に関することがよかった。②中学校の先生の分かりやすく、ていねいな指導がよかった。③担任とのコラボがおもしろかった。④時折、中学校情報を話してくれるのがよかった。等でした。

本調査から、「楽しさ」「教科の内容」「指導方法」「中学情報」の4つの効果が確認されました。今後は、小学校6年生が中学校の英語の授業を参観するなどし、より中学校英語へスムーズに接続できるよう実践していきます。



担任とのコラボも子供に好評

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



小学校の総合的な学習の時間(中学校CAN賞のプレゼンを聴いて)

中学校のCAN学習で優秀賞を受賞した2組のクラスターが小学校5、6年生全員を対象に、探究の成果を発表しました。探究テーマは「黄身(君)を助け隊」と「本当に成功しやすいボトルフリップとは」と、とてもユニークで、動機から探究過程、結果、考察まで、実演や失敗談を取り入れながら発表し、小学生を釘付けにしました。発表後は小学生からの質問が相次ぎ、やりとりする小中学生の姿に小中接続期の教育の在り方のヒントがあるように感じました。

以下、小学生の感想を紹介します。

- ・中学校に入るとこんなことができるんだとわくわくする。
・身の回りにあることを当たり前だと考えずに、色々なはてなを考えて研究している。
・自分も先を見通す力や意見を言う力をつけたい。
・すればするほど楽しいのだろう。早くしてみたい。



中学生のプレゼン発表



質問する小学生

小学校の総合的な学習の時間(CANを取り入れた附小フェスタ)

今年の6年生は4月、10月に中学校へ行き、CAN学習の見学をしました。その際に学んだ追究の仕方や、プレゼンの仕方を活かしながら、附ッザニアを開きました。附ッザニアでは、自分が将来なりたい職業について調べ、その職業についてプレゼンテーションし、体験してもらおうブースを作りました。保護者の方や、1年生まで幅広い客層の中で、どうすれば相手により分かりやすく伝わるのか、どんな体験をしてもらうとより職業のことを分かってもらえるのか試行錯誤しながらつくりあげることができました。当日、来てくれたお客さんの笑顔を見たり、温かい言葉をもらったりし、6年生も大満足の附ッザニアとなりました。



附ッザニア

香川大学教育学部 伊藤裕康教授より



自らの課題を発見し、探究し、成果を発表し、評価を受けるCANは、子供たちに責任をもたせて任せることから、学校文化となり生徒も誇りに思う附属坂中の校訓「自由と規律」の精神を端的に示す。さらにCANは、物語の三幕構造を成す。先にたちCANを進めた3年生が去り、残された2年生は、自分の興味・関心、問題意識に基づき新たに自らの課題を立ち上げ、共鳴した1年生が合流し、課題の探究が始まる。1幕「日常からの旅立ち」である。年度が変わり、新入生が合流し、試行錯誤しつつ探究を深め、成果を全校に公開し評価を受ける。2幕「非日常への冒険」である。CANを進める中で様々な課題を克服し、最後は研究着手から終了までを「CANLOG」にまとめて振り返り、一回りも二回りも自分たちの成長を自覚する。第3幕「新たな日常への帰還」である。CANは学びの成長物語、同校が追究する「ものがたり」の授業を教科外の視角から展開したものである。

CANの発表会に小学生・高校生が参加!

総合学習CANの中間発表会を、10月16日(水)に開催しました。今回は、附属坂出小学校の6年生が発表を聞いて、中学生の学びのすごさを実感したり、半年後からスタートするこの学習に意欲を見せたりしていました。また、坂出高校の教育創造コースの生徒も参加し、これまでアドバイスをしてきたクラスターに温かい声をかけたり、発表を聞いてそれぞれのグループの評価を行ったりしました。



中間発表会の様子

中学生の声

- ・高校生や小学生に聞いてもらうのは少し緊張して伝えたいことが伝えられるか不安でした。しかし、うなずきながら聞いてくれたり質問をしてくれたりした時は、分かってくれているんだと思い安心しました。
・たくさんの質問をもらい、自分たちがこの探究で足らなかったこと、欠けていたことに気づくことができました。これから本番の発表に向けて工夫できる点や改善点を見つけて頑張りたいです。

小学生の声

- ・中学校ですることの実感がわきました。中学生になって早くCAN学習に参加したいと思いました。
・質問に対してしっかりと答えられていてすごいと思いました。私は授業の中で質問されたら答えられないことも多いので、中学生みたいに質問に答えられるようになりたいです。



真剣に発表を聞く小学生

高校生の声

- ・どのグループもくわしく調べられていました。失敗しても、次はこうすれば良くなるのではと、いろいろなアイデアを出していたのがすごかったです。

【優秀研究 CAN賞】

- 「石けんの研究4」
「本当に成功しやすいボトルフリップとは」
「書の魅力をストーリーで伝えるためには? ~色と音の効果について~」
「サザエさん一家、坂出に引越す」
「黄身(君)を助け隊」

【坂高賞】

- 「サザエさん一家、坂出に引越す」



発表を評価する高校生

ふれあい祭り

11月23日、穏やかな天候の中、たくさんの方にご参加いただきました。全校で一つになって取り組み、地域の人たちや卒業生、保護者とのふれあいを楽しみました。

小学部

【日常生活での自立をめざして】

小学部の子供たちは、体育館で合唱・合奏を発表しました。自分がしてみたい楽器を選び、パートに分かれて練習を重ね、本番を迎えました。たくさんのお客さんに前に緊張した子もいましたが、練習の成果を見ていただくことができました。また、自分たちで作った作品の販売もしました。お客さんに喜んでもらえるものを作ろうと、こちらもグループに分かれて根気強く取り組みました。いろいろな活動を通して、自分の役割を果たしたり、友達と協力して一つのことに向かう姿勢を身に付けたりできることを目標に取り組みました。



作品作り



作品販売



合唱・合奏

中学部

【集団生活での自立をめざして】

中学部は、コミュニケーション能力や社会性を養い、主体的に集団に参加する力を高めること、働くことに関する基礎的な知識や態度を育てることを目標にしています。ダンス&書道パフォーマンス、全校合唱は、お客様が楽しんでくれるよう、心一つに練習しました。息の合った歌や踊り、習字を披露することができ、大きな拍手をいただきました。また、作業販売では、自分たちが作った野菜、陶器、紙すき製品を販売し、たくさんお買い上げいただきました。お客様に喜んでもらえるような製品作りを目標にしてきたので、笑顔で「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えることもできました。



ダンス&書道パフォーマンス「Happiness」



作業販売

高等部

【社会生活での自立をめざして】

高等部は、学習や生活で身に付けた力を、時と場に応じて活用して働く力を育てることや、生徒自身が自分の役割を自覚し、遂行するために工夫したり、人とのふさわしい関わり方に気付き、よりよく問題を解決したりすることを目指しています。喫茶「まうてんぴーち」では、接客とバックヤードに分かれて、お客さんに満足してもらえるような運営を心掛け、笑顔で活気に満ちた喫茶を開くことができました。「おいしかった」と言ってもらえることで、生徒たちの意欲も高まり、望ましい人間関係を築こうとする姿につながりました。また、作業販売でも、商品をたくさんの方に買っていただいたことが、今後の学習のさらなる励みとなりました。



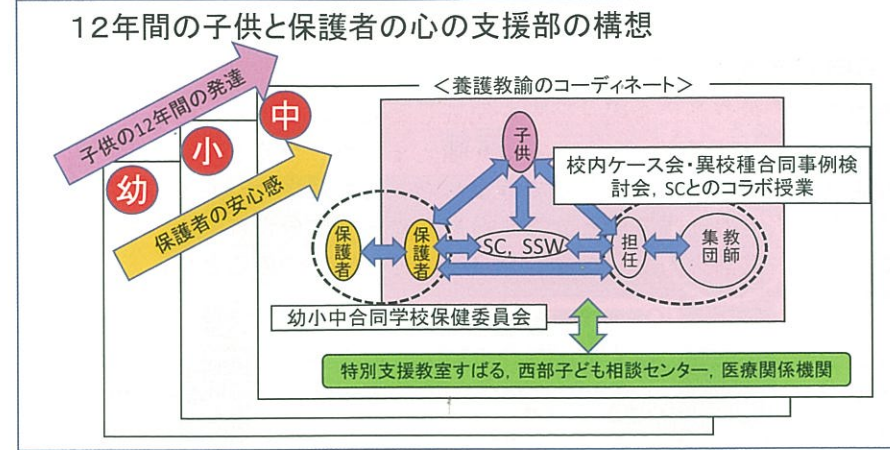
喫茶「まうてんぴーち」



作業販売



幼小中の養護教諭とスクールカウンセラー（SC）、
スクールソーシャルワーカー（SSW）がコラボして



附属坂出学園学校医 佐藤医院
佐藤融司先生より

附属坂出学園は幼小中12年間一貫した教育ができるという特徴を活かして、幼稚園からスクールカウンセラーが配置され、子供たちの心の支援をしています。これは大きなメリットで、学校保健安全委員会において、幼小中すべての保護者が参加され、子供たちのいろいろな心の問題を提起して、研修を続けていることは素晴らしいことだと評価できます。



幼小中合同研修 学校保健安全委員会「子供のよさを見つける」

11月13日（水）に、附属坂出小学校で幼・小・中合同の学校保健安全委員会があり、約40人の保護者の参加がありました。藤澤SSW、入江SC、田中SCのリードにより「子供の強みを見つけよう」というグループワークを行いました。人はつつい「できないこと」に焦点をあてがちですが、自分や子供が今できていること、取り巻く資源に着目し、参加者でシェアリングを行いました。参加した保護者からは、「個人の強みと環境の強みの両方があることが大切だと思いました。」「子供の良さを再確認できるとも良い機会になりました。」「様々な学年・校種の保護者の方と話ができ、とても参考になりました。」等の声が聞かれました。参加者の皆様、お忙しいところご参加いただき、たくさんの温かいご意見をありがとうございました。



藤澤SSW, 入江SC, 田中SCからのアドバイス

SCの専門性を活用した「コミュニケーションプログラム」

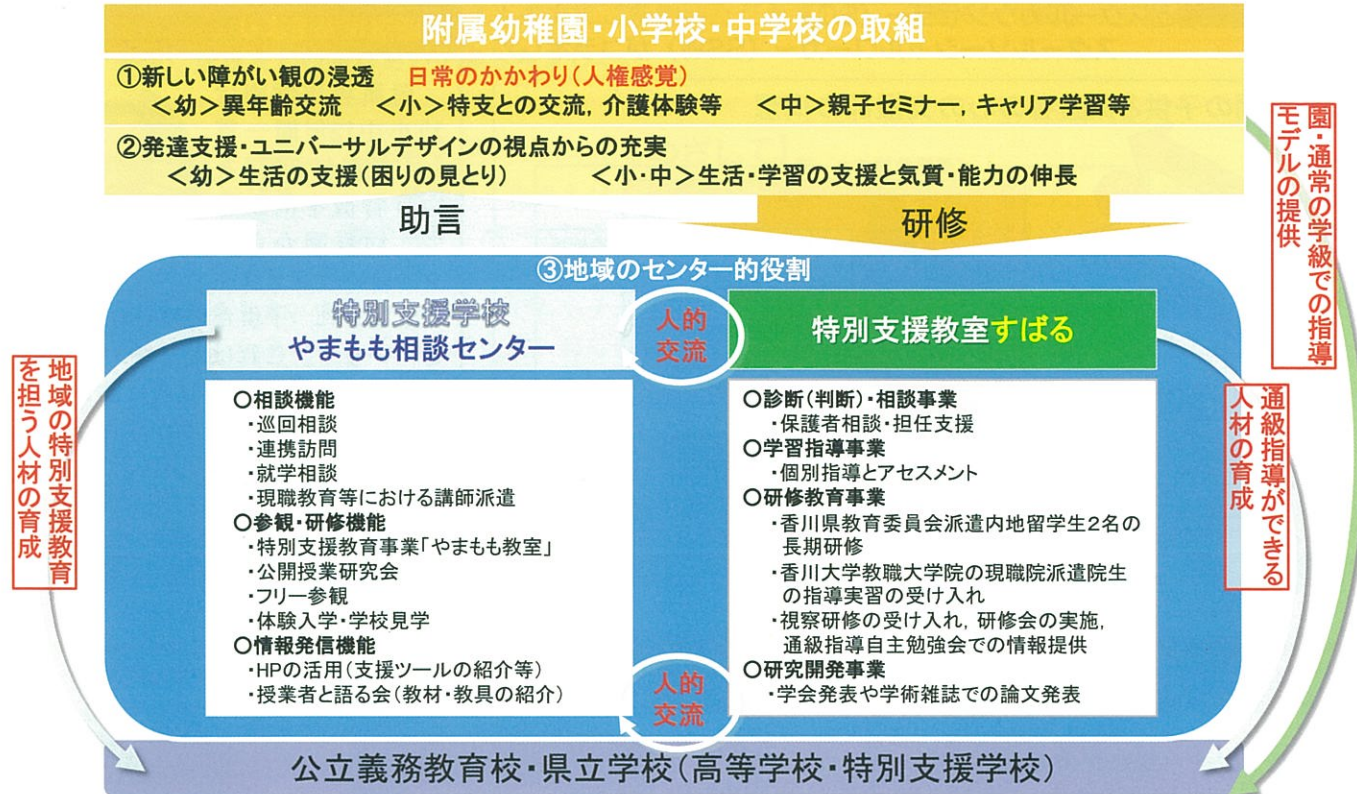
小学校では6年生を対象としたコミュニケーションプログラム「考え方のクセ、ゆがみ（ユガミン）と上手に付き合おう」を行いました。授業では、心と身体のチェックを行い、自分のストレスを視覚化してみました。そして、自分のユガミンを知り、考え方を柔軟にすることで、より自分らしくのびのびと過ごせることが分かりました。6東、西の子供たちに共通するユニークな点は、授業内で用意したユガミンだけでなく「先生！こんなユガミンもあるよ。」と、予想もしない面白い意見をたくさん出してくれたことです。次回も、6年生のあっと驚く意見が聞けることを楽しみにしています。



自分のユガミンについて考えている様子

Ⅱ インクルーシブな学校文化の醸成に向けて

幼小中学校と特別支援学校、特別支援教室「すばる」の関係及び公立校への貢献



幼小中特支合同研修会

文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官、田中裕一先生を招いての幼小中特支の合同研修会を実施しました。事前に各校園の悩みや質問を調査官に送り、それに答えていただいたり、授業を参観してもらいアドバイスをいただいたりしました。また、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の考え方～発達障害の特性から～」というテーマでご講演いただき、附属坂出学園改革の柱「インクルーシブな学校文化の醸成」の実現に向けて次のように話をしてくださいました。

子供たちの困り感に寄り添うために、幼小中、12年間を通して、情報の引継ぎを行っていくことが、成長につながります。その際、養護教諭を中心とした心の支援部が大切になるでしょう。また、活動の目的を関わる人や地域の人に伝えることで、周りの協力を得ることが可能になってきます。社会に開かれた附属型コミュニティを、地域と連携しながら、PDCAサイクルで行っていくことが大切です。そして、よりよい教育を実践するために、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行っていくことが最も重要です。

研修会に参加した教員からは「幼児期の経験を小学校教育へ確実につないでいくことで、未知の状況に対応できる力をしっかりと育ていきたい」「田中調査官の2つの主張点『子供のニーズを知る』『つなげる』を具体化、実践、発信をしていき、インクルーシブな学校文化を醸成していきたい」「田中調査官のこれまでの経験を基に話をしてもらったので、とても分かりやすかった。決して特別なことではなく、普段の授業の中で使える考え方だった」といった声が聞かれました。

4校園で共有したことを、これからの実践に活かしていきます。



幼小中特支合同研修会
「インクルーシブな学校文化の醸成」に向けて

河合純一先生に学ぶパラリンピック (小・中学校)

特別支援教育専門の坂井聡校長とパラリンピックのレジェンド全盲の河合純一氏のコラボ授業を全校児童414名と保護者約200名、教職員21名を対象に実施しました。また、同様の講演会を中学校でも実施しました。コラボ授業は河合氏の「パラリンピックを通して伝えたいこと」の話をベースに、坂井校長が河合氏に質問することで具体化を図ったり、子供たちの意見や質問を引き出したりする役割を担いました。河合氏は「本当に大切なものは友情や信頼などの目に見えないもの、仲間はずれにされる人がいない、よいところを活かすフルーツポンチのような社会をつくらう。夢は実現してこそその夢、夢への努力は 今しかない。仲間をたくさんつくってがんばってください」と子供たちへのエールを込めて熱く語っていただきました。授業の終盤は、坂井校長が総括として、困っていることに気づき「ちょっと手伝いましょうか」と手をさしのべる大切さを語り、優しい社会をまず坂出学園からつくっていきましょうと皆に呼びかけました。1時間30分(2コマ分)のコラボ授業でしたが、1年生から6年生まで、2人の授業に最後まで聞き入りました。河合氏が校長の肩に手を置き、2人笑顔で仲良く退場する際には、会場に割れんばかりの拍手が起こったのが印象的でした。終了後、控え室を訪れてきた熱心な児童は「最近、困ったことは何ですか」と質問し、「困ったことはないんだけどねえ」と回答に困っている河合氏の姿を見て、全盲をすべて受け入れ、今を一生懸命かつ楽しく生きている姿に感動していました。



河合氏に質問し具体化する校長



授業後に質問にきた児童

附属特別支援学校のセンター的役割の紹介②

中尾繁樹先生

講演会「感覚運動の視点から子どもたちの支援を考える」

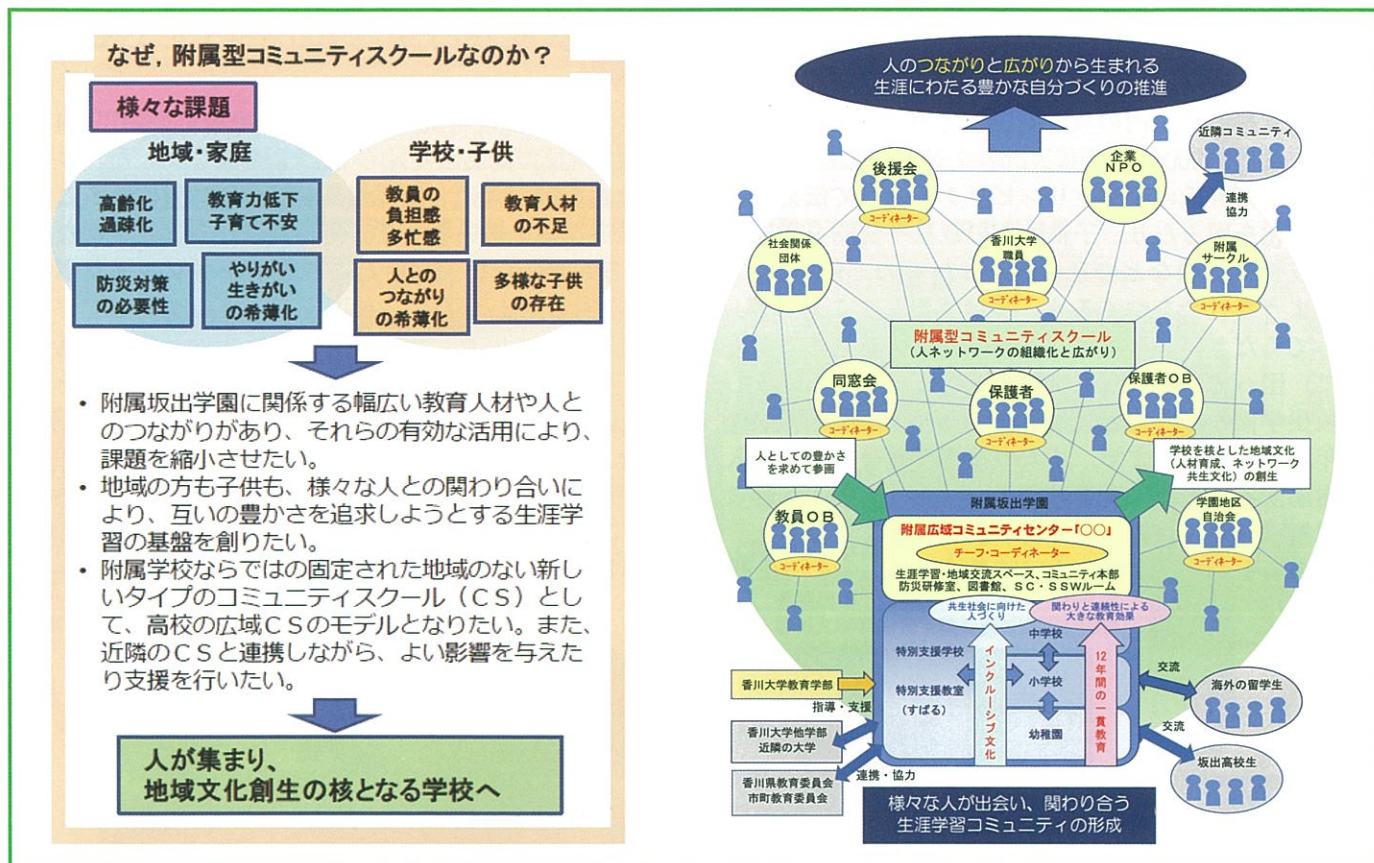
10月20日、本校「やまも教室」と香川県高等学校教育研究会特別支援学校自立活動部会との合同開催で講演会を開きました。当日は、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の先生方や保護者、関係機関の方々など100名近くの参加がありました。

最近の子供によく見られる姿勢の崩れや不器用さなどの原因や支援の方法について、関西国際大学教授の中尾先生に感覚運動の視点から体験活動を取り入れながら具体的に教えていただきました。

参加者からは、「具体的なエピソードを挙げてのお話や体験なども織り交ぜてお話をいただき、明日からの実践に活かしていける示唆を得ることができ、新たな視点で支援に取り組もうという気持ちにつながった」という感想が多く聞かれました。



講演会の様子



～ 絆を届けよう ～

幼稚園

お母さんのお母さんによるお母さんのための会「ウェンディの会」開催！

10月24日、幼稚園でウェンディの会を開きました。今年は、リボンを使ってバッグやアクセサリ、小物を作りました。子供とお揃いの髪留めやリボンで飾り付けられたバッグなど、どれも可愛くでき、お母さんの心も彩りました。



横津獅子舞保存会の方々が幼稚園に来ました

10月18日、横津獅子舞保存会の方々が来園しました。鉦と太鼓に合わせて獅子舞が始まると子供たちは釘付け。怖いのを我慢しながらじっと見たり、触りに行ったり、楽しみ方はそれぞれでした。子供たちの真剣な眼差しが使い手さんや鳴り物さんの力になり、次の世代に受け継がれるのでしょうか。保存会の方から「毎年、子供たちに会うのを楽しみにしています。来年も元気をもらいに来よう」と声をかけていただきました。



小学校

附属型コミュニティを活用した「附属ふれあい預かり学校」

親子わくわく4連休(10/31～11/4、いわゆるキッズウィーク)の平日の木、金に、家庭で子供だけになる子を対象に、「附属ふれあい預かり学校」を実施しました。実施に当たっては、附属型コミュニティを活かし、多くの教育人材を活用すること、支援していただいた方にも楽しさや喜びを感じられるようにすることを考えました。祖父母や松香会(PTAのOB会)、卒業生、地域の企業(四国電力)、香川大学生に協力をいただき、1日目61名、2日目72名、計133名の児童が支援者とともに楽しいひとときを過ごしました。事後調査(R1.11/5)によると、4連休の実施に対して肯定的な回答が子供は90%(+2%)、保護者は68%(+6%)と昨年度より増えました。主な感想として児童は○家族で楽しく過ごせた。○預かり学校が楽しかった。▲友達や先生と会えないなど、保護者は○子供とふれ合ういい機会これからも続けてほしい。○預かり学校がありがたかった。▲休みが取れないのでわくわくしない。などでした。今後、コミュニティスクールを活用した取組が広がり、国が進める「体験的学習活動等休業日」が子供や家族にとって、有効な活動になることが期待されます。(詳しくはHPをご覧ください。)



ばあばあず「カレー食堂」

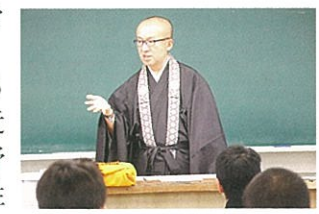


角山ハイキング

中学校

保護者や大学教授による「未来を夢見る授業」

12月7日のオープンスクールの日に、保護者や大学教授の方がたが講師になって授業を行う「未来を夢見る授業」を実施しました。保護者の方がたによる授業(全9講座)は、1,2年生対象で、職業に関する内容だけでなく、社会人としての生き方や仕事に対する情熱を熱く語ってくれました。時には、その仕事ならではのエピソードや裏話もあり、生徒は強い関心をもって講座を受けていました。大学教授の方々による授業(全6講座)は、3年生対象で、大学が身近になるだけでなく、それぞれの分野の最先端を知り、未来社会の可能性を感じるとる貴重な機会となりました。



僧侶の魅力について語る



レーザー光線で風船を割る

| 保護者による授業 | 大学教授による授業 |
|----------|-----------|
| 僧 侶 | 教育学部 |
| 歯科医師 | 法学部 |
| 理学療法士 | 経済学部 |
| 看護師 | 医学部 |
| 企業研究職 | 農学部 |
| 建築士 | 創造工学部 |
| 自動車学校 | |
| 小学校司書 | |
| 算数教室経営 | |

シンポジウム「附属は地域に何ができるか」
～附属型コミュニティスクールの可能性を坂出市立公立学校のコミュニティ・スクールから考える～

令和元年11月24日、坂出市教育委員会、坂出市立小中学校、香川大学、附属坂出学園の4者合同のシンポジウムが、それぞれの関係者約40名が集まり盛大に開かれました。会は①「附属型コミュニティスクールの構想と進行状況」②「坂出市立府中小学校のコミュニティ・スクールの取組」の2つの発表から、テーマに迫るべく方法を拡散的に探っていきました。様々なアイデアを出し合った後、坂出市教育委員会主任指導主事様と香川大学教育学部から「附属CSの可能性」について助言をいただきました。詳細はHPをご覧ください。



附属型CSの構想を発表

附属型コミュニティスクール準備委員会の様子



香川大学教育学部 野村一夫特命教授より

生涯学習社会において、主体的に「学び続ける」ことが求められています。附属坂出学園では、多様な資産(人、施設・設備、情報等)を活かした「附属学園型コミュニティスクール(学校運営協議会の設置)」が進められようとしています。「魅力ある」学校づくりに向けた目的を共有し、地域創生に貢献する人材の育成が期待されています。



松 韻 会

附属PTAが「改革モデル」を四国地区のPTAに発信

令和元年10月13日（日）、丸亀市綾歌総合文化会館（アイレックス）にて、日本PTA四国ブロック研究大会が開催されました。その中のパネルディスカッションの場で、附属坂出学園松韻会の村上副会長が、香川県のすべての学校を代表し、本学園の改革やPTAの取組を先進的かつモデル的な活動として1,000人を超える多くの参会者の前で発表しました。

全国でも珍しい幼・小・中学校が1つの組織としてまとまった取組であること。特別支援学校のPTA組織とも連携しながら学校行事に参画していること。コミュニティスクールの一環として保護者が主体となって取り組む「保護者によるキャリア教育」「親子天体観測会」「土曜メンテナンス」「登下校時の見守り」などの特色ある活動を充実させていること。12年間を通して親子の絆、親同士の絆、親と先生との絆づくりに努めていること。などを具体的に発信しました。「子どもと親、学校の先生、地域の方々が同じ方向を見ながら成長しようとしている」という最後の言葉が印象的でした。



パネルディスカッションの様子

参会者（他県のPTAの方）の声

- ・ 幼・小・中学校が1つのPTA組織として活動していることは大変な面があると思うが、12年間でのPTA活動はとても効果的だと感じました。
- ・ 附属学校の今の現状を知ることができ、PTAが主体となって改革を推進していることは素晴らしいです。
- ・ PTAが主体となって取り組んでいる活動は、どれもモデル的な活動ばかりで、私たちが今後参考にさせていただきます。

親 和 会

幼稚園・小学校・特別支援学校合同の「夏休みセミとり大会」が7月27日に瀬戸大橋記念公園にて行われました。早朝に幼虫が羽化するシーンを観察したい者は6:00に集合し、セミとりのみを体験したい者は8:00に集合しました。総勢約50名の親子が参加しました。

セミを一番たくさんとった親子には、講師がとってきたカブトムシが贈られ、予想外の賞品に大喜び。また、参加者全員にカブトムシがよくとれる秘密の場所の地図が配られ、昆虫への興味を深めていました。

講師を務めたのは、特別支援学校PTA（親和会）副会長の石川様。自他とも認める昆虫博士で子供の頃からセミ、カブトムシ、クワガタ等たくさん採集し飼育していたそうです。

今後も、幼小中特支合同で取り組み、おやじの特技を活かした活動を企画し、教育人材をどんどん開発していきます。



穴から出てきた幼虫



セミとりの様子

編集後記

今年度より「人が集まる魅力ある学園」をコンセプトに坂出学園の改革が本格的にスタートしました。附属ふれあい預かり学校では、ばあばあず「カレー食堂」・角山ハイキングなどに地域のお年寄りが参加してくれました。また、パラリンピックレジェンドの河合先生や田中特別支援教育調査官のお話を拝聴し、インクルーシブな学校文化の醸成も進んでいます。附属坂出学園に力を貸してくださる方がどんどん増え、附属型コミュニティ（人のつながり）は日増しに充実しております。

これらの様子は、各校園のHPにて発信しておりますので、ご覧いただき今後とも皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2020.1.吉日
発行事務局：香川大学教育学部坂出学園